ＩＣＦと合理的配慮と特別支援教育(5)

企画者　徳永亜希雄　（横浜国立大学）
司会者　徳永亜希雄　（横浜国立大学）
話題提供者　徳永亜希雄　（横浜国立大学）
隈田原聡　（宮崎県立児湯るぴなす支援学校）
西村修一　（前・栃木県立岡本特別支援学校）
逵　直美　（東京都立光明学園）
堺　裕　（帝京大学）
指定討論者　齊藤博之　（山形県立ゆきわり養護学校）

KEY WORDS: ICF　合理的配慮　特別支援教育

【企画趣旨】

ICF（国際生活機能分類）は，WHO 国際分類ファミリーネットーワーク内において，障害者の権利条約との関連でも議論されてきた．同権利条約のキーワードの一つは合理的配慮である．我が国の教育における検討結果として報告された中央教育審議会初等中等教育分科会報告(2012,以下，中教審報告）では，合理的配慮についての定義，具体的な観点が例示され，また，障害の状態等に応じた合理的配慮を決定する上で ICF を活用することが考えられる，と述べられた．

しかしながら，その後，具体的な実践レベルでの検討は十分になされていなかったことを踏まえ，本テーマを設定し，議論を重ねてきた．

前大会においては，ICF 活用について次のように確認した．まず概念的枠組みの使用については，子どもの実態を多面的・総合的に見ること，特に参加の視点から考えられるのが特徴であり，そのことを踏まえて目標設定をするのに寄与できるものと確認した．次に分類項目の使用については，見落としなく，多面的に見ることに寄与できるものとした．

一方，合理的配慮については「スタートラインを揃えるための配慮」として共有された．合理的配慮の方向性としては，伸びゆく子どもの学びを奪わない，過保護にならないものとなる必要があり，これまでのものに「加える配慮」だけではなく「差し引く配慮」もありえることを共有した．一方で，議論が尽くせず，継続的な検討の必要性も確認した．

そこで，本大会においては， 前回までの到達点と課題を踏まえ，それぞれの検討経過報告を軸に，より具体的に議論を展開したい．

【話題提供者の趣旨】

１．一般的な「合意形成」論と合理的配慮（徳永）

本シンポジウムは，科学研究補助金「特別支援教育における合理的配慮決定のための合意形成プロセス」の補助を受けて行っている．そのことを踏まえ，ビジネス書等を含めた多分野での「合意形成」や関連事項についての文献研究を行った．そこで得られた知見をもとに，合理的配慮に関する合意形成プロセスについて，話題提供を行いたい．

２．特別支援学校（知的障害）での取組事例（隈田原）

徳永氏との研究協力関係のもと，特別支援学校（知的障害）在籍児童に対する合理的配慮の在り方について検討を開始した．合意形成プロセスの検討の以前の課題として，目の前にいる児童の合理的配慮をどう捉えたらよいのかについての検討が必要だと感じている．当日は，その検討経過について報告したい．

３．合理的配慮と LD 児用 ICF コアセットによる評価(西村)

LD 児用 ICF コアセットの開発・活用を通して，本人・保護者の申し出に基づく合理的配慮を踏まえた LD 児支援の在り方を考察し，平等と参加を確保する学びの姿を捉える．そして個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成に繋げながら，「合意形成」のプロセスにおける ICF による評価の有用性を明らかにしたい．

４．合理的配慮と ICT 活用について　（逵）

肢体不自由のある子どもたちにとって，ICT 機器の活用は必須である．将来の生活をより豊かにするために，電子図書を活用したり，各種検定に取り組んだりする活動を行っている．

生徒の実態を把握し，取り組む過程においての合理的配慮について述べ，決定に際しての「合意形成」について現状と課題について話題提供を行いたい．また，校内で自主的に行っている ICF　の理解啓発活動についても報告したい．

５．合理的配慮決定における ICF-CY 分類項目の活用（堺）

合理的配慮決定に向けた合意形成プロセスにおいて参考となる ICF-CY（ICF 児童版）分類項目を明らかにするために，中教審報告で述べられている学校における合理的配慮の観点の内容と ICF-CY との適合性を検討してきた．

今回，この検討の結果得られた ICF-CY の分類項目を ICF の概念的枠組みの中に整理した．この結果，障害の状態だけでなく，合理的配慮を提供する際の留意点などにも分類項目を活用できる可能性が示唆されたので報告したい．

【指定討論者の趣旨】

これまでの検討経過を踏まえて（齊藤）

これまで,本シンポジウムの企画と運営に関わってきた．これまで検討されてきた内容から，どういった課題があるのかを確かめるとともに，各話題提供の内容等を交えながら，今後の合理的配慮の在り方について議論を行いたい．

(TOKUNAGA Akio,　KUMATATBARA Satoshi,　NISHIMURA Shuichi, TSUJI Naomi, SAITO　Hiroyuki, SAKAI Yutaka)